

UJNR 水産増養殖専門部会

第10回日米合同会議 共同声明

第10回 UJNR 水産増養殖専門部会、日米合同会議は1981年10月27日アメリカ合衆国 Delaware 州 Lewes 市 Delaware 大学 海洋科学センターにおいて開催された。会議の初めに日本部会 能勢事務局長より須田明前部会長に代りて花村直彦養殖研究所所長が部会長に就任したことが報告された。米國部会より Robert Wildman 委員が副部会長に就任したことが報告された。

引き続き「貝類の増養殖」に関するシンポジウムが開催され、貝類の増養殖に関する概要や研究に関する論文が発表された。

花村部会長が会議に出席出来なかったため、部会活動に関する討議は能勢部会長代理と Mahnken 米國部会長の議事進行により行われた。会議の書記には大和田統一委員と Ben Drucker 委員が選出された。

過去1年間の部会活動の経過と今後の計画を以下の如く総括した。

1. 研究者の交流

UJNR を通じての研究者の交流は日米両国における水産増養殖に関する研究の発展および情報の交換に最も有効であったことが日米両部会により確認された。

新井茂博士は米國水産局 Northwest and Alaska Fisheries Center に、大和田浩爾博士は米國 South Carolina 大学に滞在し研究を行なった。California 大学と Western Washington 大学の学生が東北海区水産研究所とカキ研究所において研究を行なった。日本部会から3人の UJNR 委員 (能勢建嗣、大和田統一、大和田浩爾) および3人の研究者 (金沢昭夫 鹿児島大学教授、手島新一 鹿児島大学助教授、菊丸修 鹿児島県水産試験場主任研究員) が第10回 UJNR 日米合同会議 並びに水産増養殖における栄養に関する第2回国際会議に参加している。東北水産研究所 澤永久博士は1982年に米國に派遣され、アワビの増養殖に関する研究と行われ予定である。

2. 文献の交換

日米両部会は 二か月に同様に文献の交換を行なった。この1年間に120編の論文が日本部会から米国部会に贈られ、一方、78編の論文が米国部会から日本部会に贈られた。才10回 日米合同会議において日本部会より「水産増養殖に関する研究レビュー(水産庁研究部編)」が贈られた。Northwest and Alaska Fisheries Centerの電算機による水産増養殖分野の文献検索の利用については継続するこゝで述べられた。

3. 共同研究

共同研究の経過報告が日米両部会から行なわれた。

- (1) 海産魚病の登録 — 共同研究として今後とも続けていくことが確認された。
- (2) カキの大量への死 — 数年間続いていいるため、今後とも続行していくかについて米国側で検討する。
- (3) アメリカ産カキの日本における耐病性 — 共同研究は完了
- (4) アワビに関する研究 — 浮博士が1982年訪米する際に今後の研究内容について米国の研究者と話し合う予定である。

共同研究に関し新しい計画は米国部会にばかりか、将来以下の内容に関し共同研究の意義と可能性について米国部会で検討したいことが示唆された。

- ① スピルチ化
- ② 生殖に関する生理
- ③ 栄養に関する比較研究
- ④ 水の再利用システム
- ⑤ 養殖池における環境動態

ほか、日本側からも新しい提案はあった。

4. 才2次5ヶ年計画

UJNRの部会活動における才2次5ヶ年計画として以下の課題が確認された。

- | | | |
|------------|----|-------------------|
| 1年目(1982年) | 日本 | — マアス増養殖の強化 |
| 2年目(1983年) | 米国 | — 増養殖におけるエンジニアリング |
| 3年目(1984年) | 日本 | — 増養殖における環境問題 |
| 4年目(1985年) | 米国 | — 生殖に関する生理 |
| 5年目(1986年) | 日本 | — マリンランゲージ |

5. 出版

出版方針に因り以下の如く確認された。

- (1) 発表論文の用語は全て英語を用いる。
- (2) 日本両部会の各1名が編者となり、出版は米國部会が担当する。
- (3) 公的機関において出版される。
- (4) 論文の要旨を合同会議のシンポジウムで発表し、その際に論文原稿を提出する。
- (5) 次の3種類の論文と含める。

総述的論文、研究の現状に関する論文、技術的論文

1978年および1979年の論文は、Sinderman委員により編集が完了しつつある。

1980年および1981年の論文は、まとめて出版される予定である。

6. 次期合同会議

次期日米合同会議は、東京において1982年10月中旬に開催される予定である。会議の主題は「サケマス増養殖の強化」であり、合同会議後、東北地方および北海道において現地検討会と行なう。

昭和56年10月27日

アメリカ合衆国 Delaware 州 Lewes 市にて



米國部会長 コンラッド・マーンケン



日本部会長代理 能勢健嗣